

修学院小学校運営協議会だよい

第 26 号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 村山 雅彦
令和4年12月20日発行 家庭数配布



師走の候、平素より、修学院小学校運営協議会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。さて、今年度も、新型コロナウイルス感染症予防、また感染症拡大防止の対応策としまして、3密を避けた取組を進めてまいりました。

子どもたちも、保護者・地域の皆様も楽しみにしておられる行事も、形を変え実施する運びとなり、これまで以上にご理解とご支援をいただいておりますこと、感謝いたしております。

さて、2学期のまとめの時期となりました。これまでを振り返り、子どもたちのため、よりよい学校づくりを目指し、3学期に向かってまいります。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願ひします。

学校安全環境委員会

10月4日(火)2校時に不審者侵入対応訓練を実施しました。不審者侵入対応訓練では、不審者が侵入した時の緊急通報の聞き方や避難の仕方等を知り、整然と素早く行動できるように取り組みました。教室の入口を机や椅子で塞いだり、教室の端に集まったりすることが素早くできていました。

事後指導として、PTA環境委員の方が作成してくださった動画を視聴しました。また教職員研修として、下鴨警察署の方から「さすまた」などを使って不審者の取り押さえ方や簡単な護身術を教わりました。

学び支援委員会 開かれた学校委員会

例年、安全点検活動・きらら給食・お掃除おしえ隊など、子どもたちとともに活動したり、直接関わったりする取組が多くありました。



学校運営協議会で委員の方々と検討を重ねた結果、子どもたちの安全確保が第一と考え、今年度も多くの取組を見合わせることと致しました。その中で、運動場横のスロープや体育館前、本館と北校舎の間の渡り廊下にある鉄製の柵にペンキで塗装を行いました。

今後とも、子どもたちが安心して学校で学べる環境づくりに努めて参ります。子どもたちのために、できることを考えながら、安全に留意し活動を進めて参ります。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

～修学院散歩～

京都市内の傾斜と修学院の標高

日本の標高は、東京湾の平均海面を標高 0m として、標高 24.500m の地上水準原点が明治 24(1891)年に設置されました。大正 12(1923)



年の関東大震災の地殻変動によってその基準値が 24.414m、平成 23(2011)年の東日本大震災によつて 24.390m と再測量され、現在に至っています。

さて、わたしたちが住む京都市内は、北から南にかけて傾斜しており、標高 77m の北山通と日本で最も高い木造建築である東寺五重塔の高さが、ほぼ同じなのです。ちなみに比叡山の標高が 848m、修学院小学校 87m、修学院駅 78m、一乗寺駅 71m と急激に傾斜しています。みなさんも毎日、この傾斜を体感しているのではないでしょうか？

(小池 寛)

開かれた学校委員会 コミュニケーションシート（学校アンケート）より

1年に2回実施しております学校評価アンケートの、1回目の結果と分析をお知らせいたします。

家庭と学校が協力して子どもたちの学校生活をより良いものにしていくために、児童・保護者・教職員が、自己評価という形で学校生活・家庭生活を振り返って行っています。このアンケートの結果の分析を元に現状を把握し、今後の学校の取組に活かしていきたいと思います。また、学校運営協議会の「開かれた学校委員会」の委員の方々に、意見を頂いたものも合わせてお知らせさせて頂きます。お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございます。修学院小学校がよりよい学校となるよう教育活動を進めて参ります。

アンケートの項目につきましては「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の各7項目の中から抽出して結果と考察をお知らせしたいと思います。

確かな学力定着に向けて～家庭学習と 読書の習慣を～

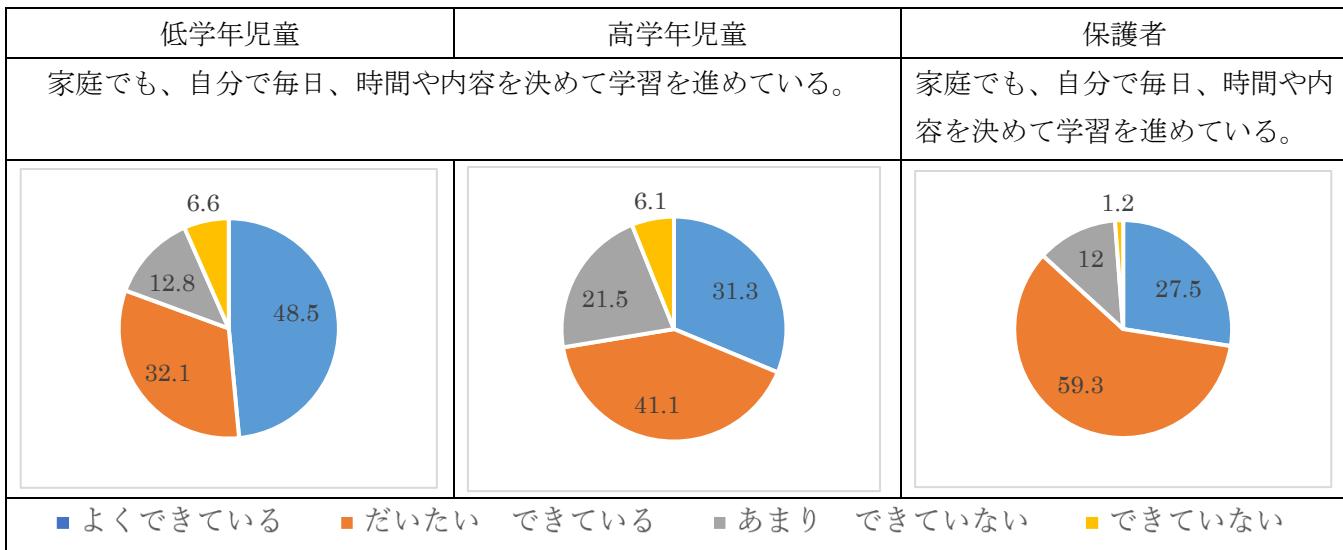
＜結果＞

昨年度同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができている。

『家庭学習への取組』の項目については、しっかり取り組むことができている児童も多いが、低学年に比べ、高学年の方が『よく出来ている』と答える児童の割合が低くなっている。また、『家庭学習への取組』の項目において、『できていない』と答えている児童も多くおり、手立てが必要である。

＜分析＞

保護者の皆さんのご協力もあり、家庭で学習にしっかり取り組める児童が多い。しかし、学年が上がるにつれ、習い事等を始める児童も多く、決まった時間に家庭学習に取り組めない状況もある。また、家庭学習における自主学習の取組について、その方法が分からぬ児童もいるのかも知れない。



＜学校より＞

家庭学習の取り組み方を、児童に分かりやすく提示し、児童の個性に合った学習への取り組みにつなげていきたいと思います。また、保護者の方ともしっかり相談・検討することで、『できていない』と答えた児童が、意欲的に学習に取り組むことができるよう、きめ細やかな指導を行ってまいります。

豊かな心を育むために～人を大切にするために 一人一人ができること～

＜結果＞

昨年度同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができている。

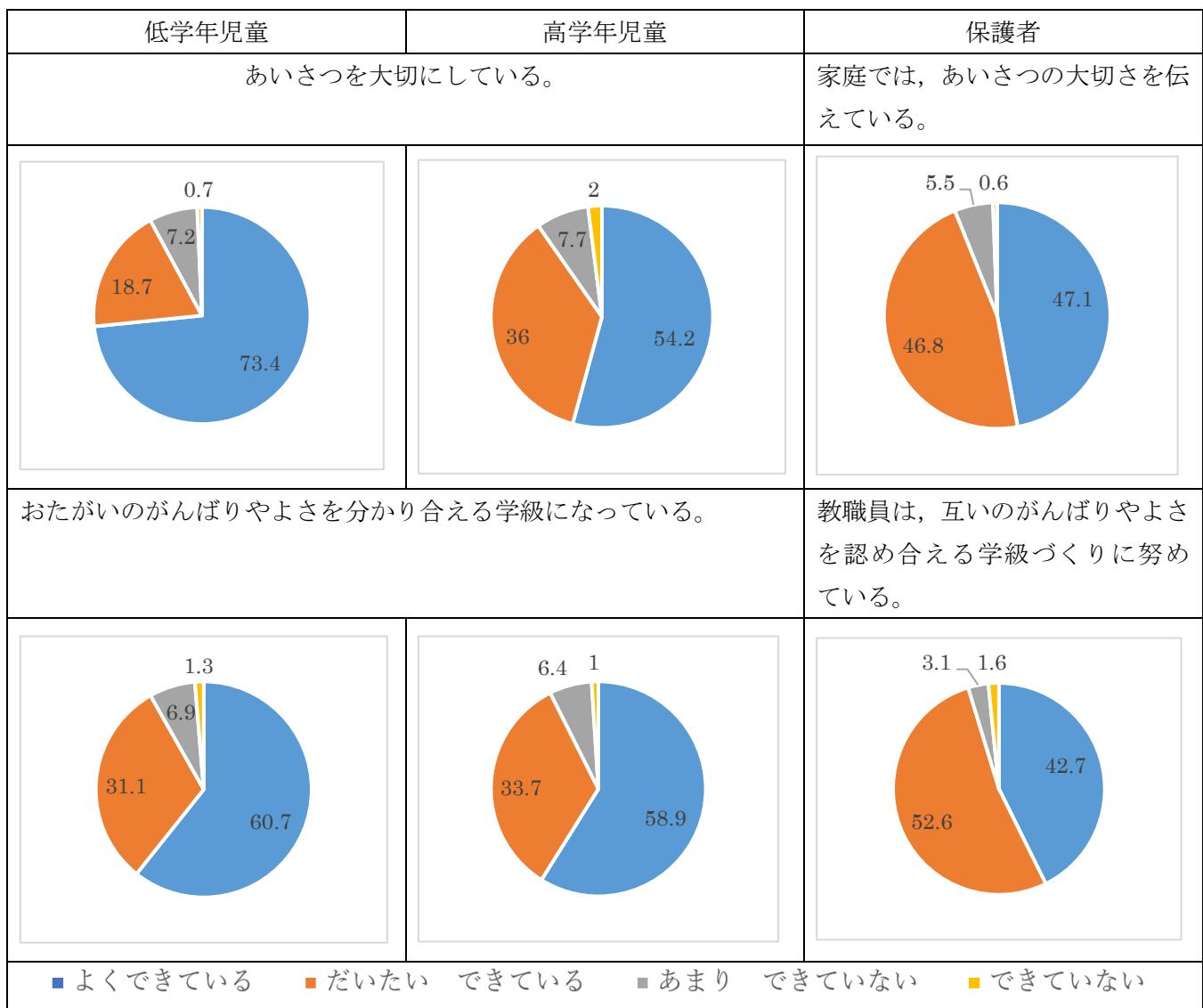
『友だちを大切にしている』という項目では、97%以上の児童が『出来ている』と答えている。

また『あいさつを大切にしている』や『お互いのがんばりやよさを分かれ合える学級になっている』という項目でも、90%以上の児童が『出来ている』と答えている。

＜分析＞

今年度も、『友だちを大切にしている』『お互いのがんばりやよさを分かれ合える学級になっている』という項目で、肯定的な意見がたくさん得られた。

修学院小学校では、一人一人を大切にして教育活動を進めている。各ご家庭、学校、地域が一体となり、一人一人のことを大切に教育してきた結果だと考える。



＜学校より＞

多くの児童が、『お互いのがんばりやよさを分かれ合える学級になっている』と答えているが、1割弱の児童はそう感じていない。子どもたち一人一人に寄り添った指導、学級経営により一層取り組んでまいります。

健やかな体で楽しい毎日を～よりよい学校生活は、健康な体づくりから～

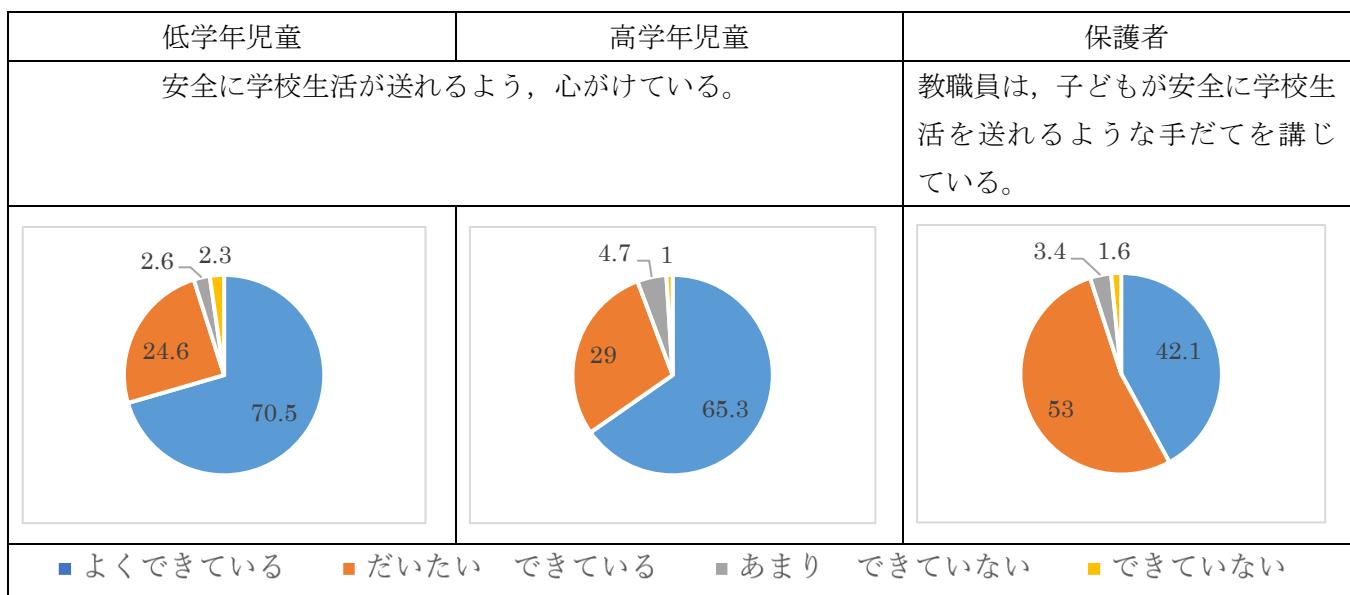
＜結果＞

全ての項目において、昨年度同様の肯定的な評価を得ることができている。

『安全に学校生活が送れるよう、心がけている』という項目については、95%程度の児童が『出来ている』と答えている。

＜分析＞

安全に学校生活を送ろうという意識が、子どもたちの中に育っているようです。今年度は、委員会活動として、校内で「安全のよびかけ」もしてくれています。このような日々の取組が、子どもたちの意識を高めていると思います。



＜学校より＞

『安心・安全な学校づくり』は、必要不可欠だと考えています。子どもたちが、安心して学校生活がおくれるよう、今後とも教育活動を進めてまいります。

「学校アンケートの結果と分析」への提言 —開かれた学校委員会での討議を中心に—

去る12月14日、アンケート結果について討議しました。【確かな学力】【豊かな心】【健やかな心と体】のほとんどの項目で「よくできている・だいたいできている」との回答が90%を超えており、児童の健全な学校生活と熱心に教育活動や児童育成に取り組まれている先生方の姿、そして、何よりも児童を健やかに育んでおられる家庭での日常生活を想起しました。しかし、家庭学習では、低学年で19.4%、高学年では27.6%の児童が「あまりできていない・できていない」と回答をしています。高学年になると習い事やスポーツに費やす時間が増え、また、多様な日常生活などがその背景にあるのではないかと分析しました。一方、自由記述では、コロナ禍の中、熱心に教育活動に取り組まれる教職員のみなさんへの謝辞が多く見られました。しかし、感染防止から授業参観が実施できなかったり、保護者参加の学校行事が減少するなど、学校の様子がわからないとの記述も散見できます。学級通信やホームページの充実により保護者の不安を少しでも解消していただくことを提言いたします。学校運営協議会は、今後とも学校運営や教育活動を応援して参ります。

(文責：協議会理事 小池寛)